

令和4年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名	小児看護援助論Ⅰ (小児保健)	分野/教育内容	専門分野Ⅱ/小児看護学
開講年次・時期	2年前半 令和4年4月11日	単位数/時間	1単位/30時間 小児保健 15時間 疾患 15時間は1年次に履修済
担当講師名	黒澤 秀子	所属・役職	専任教員
		資格・免許	看護師
授業の概要	日本の子どもと家族を取り巻く社会がどのように変遷し、子どもの健康の保持・増進するため児童福祉・母子保健施策がどのように行われてきたかを学ぶ。 学童期の保健指導の目的、方法を理解し、成長・発達を考慮した指導案を作成し実践する。		
到達目標	1. 子どもが健やかに生まれ育つことを支えるための児童福祉・母子保健など施策について理解する 2. 学童期の子どもの健康を維持するための保健指導の目的、方法について理解する		
事前学習内容	学童期の子どもの疾患・異常の被患率を調べその背景について考察する。		
成績評価の方法	終講試験 (85点) 保健指導の取り組み状況・発表・授業の参加態度 別紙評価表を使用する (15点)		
使用テキスト	専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 国民衛生の動向 2021/2022 厚生労働統計協会		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第1回	授業概要説明 第8章 子どもと家族を取り巻く社会 児童福祉		講義
第2回	第8章 子どもと家族を取り巻く社会 母子保健 医療費 予防接種		講義
第3回	第8章 子どもと家族を取り巻く社会 学校保健 特別支援学校 保健指導オリエンテーション		講義
第4回	指導案作成		講義 グループワーク
第5回	指導案作成・教材作成		グループワーク
第6回、第7回	保健指導 実践 ・意見交換		発表
第8回	終講試験		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法の改正と、社会背景を結び付けて考えることができるように学習を深める。テキストの範囲の範囲は狭いが、子どもを取り巻く社会背景や現代における問題なども学習しておく。</li> <li>・わからない言葉などはそのままにせず、自分で調べ学習を行い知識となるように努力する</li> <li>・保健指導の指導案は、学童期の発達段階をふまえ、実践できる内容をグループで協力して作成する。</li> <li>・指導案や教材の作成はグループで協力しながら実施する。</li> </ul>		

令和 3 年度 59 回生 授業概要（シラバス）

科目名	小児看護援助論Ⅰ (小児疾患)	分野/教育内容	専門分野Ⅱ/小児看護学
開講年次・時期	1 年後期 令和 3 年 12 月 3 日	単位数/時間	1 単位/30 時間 小児看護援助論Ⅰは、小児疾患：15 時間と小児保健：15 時間を合わせて 1 単位となる
担当講師名	三浦 邦彦	所属・役職	県立宮古病院 副院長
		資格・免許	医師
授業の概要	身体的系統別または病態別に構成されたテキストを使用し、各疾患の病態・症状・診断・治療について学ぶ。		
到達目標	疾患の病態・症状・診断とその治療について理解する		
事前学習内容	テキストを読んで授業に参加すること。 グループで協力し課題に取り組むこと		
成績評価の方法	試験による評価、出席状況		
使用テキスト	小児看護学② 小児臨床看護各論		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	染色体異常、胎内環境により発症する先天異常、代謝疾患		講義
第 2 回	新生児疾患		講義
第 3 回	内分泌疾患		講義
第 4 回	免疫疾患、アレルギー、リウマチ性疾患		講義
第 5 回	感染症Ⅰ		講義
第 6 回	感染症Ⅱ、呼吸器疾患		講義
第 7 回	循環器疾患		講義
	終講試験		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書や事前に配布される資料には、事前に必ず目をとおしてから授業を受ける</li> <li>・新聞やテレビ、身近な人の経験など、小児に関する話題に関心をもち小児を理解するように努める</li> </ul>		

令和4年度 59回生 授業概要(シラバス)

科目名	小児看護援助論Ⅱ	分野/教育内容	専門分野Ⅱ/小児看護学
開講年次・時期	2 年前期 令和 4 年 4 月 22 日	単位数/時間	1 単位/15 時間
担当講師名	三浦 邦彦	所属・役職	岩手県立宮古病院 副院長
		資格・免許	医師
授業の概要	小児の健康問題・障害とその治療について学ぶ		
到達目標	1. 疾患の病態生理を理解し、症状出現の根拠、治療について理解する 2. 疾患や治療が子どもに与える影響について考えることができる		
事前学習内容			
成績評価の方法	筆記試験(100 点)		
使用テキスト	小児看護学② 小児臨床看護各論 医学書院		
授業回数	授業概要(主な学習内容)		授業形態
第 1 回	第 9 章 消化器疾患		講義
第 2 回	第 10 章 血液・造血器疾患		
第 3 回	第 11 章 悪性新生物		
第 4 回	第 12 章 腎・泌尿器および生殖器疾患		
第 5 回	第 13 章 神経疾患		
第 6 回	第 14 章 運動器疾患 第 15 章 皮膚疾患 第 16 章 眼疾患 第 17 章 耳鼻科疾患		
第 7 回	第 18 章 精神疾患 第 19 章 事故・外傷と看護		
履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"><li>・ テキストは病態別に掲載されているため、小児の特徴的な疾患を理解するためには、1 年次に履修した疾病と治療を復習し成人と比較しながら授業に臨む</li><li>・ 専門的な用語や詳細などわからないことは、自分で調べたり、講師に質問するなど、積極的に授業に臨む</li><li>・ 疾患の症状など、子どもの発達段階と関連させ学習する</li></ul>		

令和4年度 59回生 授業概要（シラバス）

科目名		小児看護援助論Ⅲ (総論・各論)	分野/教育内容	専門分野Ⅱ/小児看護学		
開講年次・時期		2 年前期 令和 4 年 5 月 11 日	単位数/時間	1 単位/30 時間		
担当講師名		岩舘 陽子	所属・役職	岩手県立療育医療センター主任看護師		
			資格・免許	看護師		
		大向 幸男	所属・役職	岩手県宮古児童所 所長		
			資格・免許			
		鈴木 小百合	所属・役職	岩手県宮古児童相談所		
			資格・役職	保健師		
		黒澤 秀子	所属・役職	専任教員		
			資格・免許	看護師		
授業の概要		子どもの健康問題・障害が子どもの成長・発達や家族に及ぼす影響を理解する。 小児の各発達段階における看護のあり方や小児特有の症状とその看護について理解する。 小児の主な健康問題・障害の経過の特徴と看護の展開について理解する。				
到達目標		1. 子どもの健康問題が、子どもの成長・発達に及ぼす影響について理解する 2. さまざまな状況の子どもとその家族の特徴を理解し、看護の役割を理解する 3. 健康障害が子どもと家族に与える影響を理解し、子どもと家族への援助について理解する				
事前学習内容		1. 小児の発達段階の特徴（形態的、精神的、社会性）について復習する 2. 小児の疾患の病態、診断、治療について復習する				
成績評価の方法		＜総論＞100 点 ＜各論＞100 点（黒澤 60 点・鈴木先生大向先生 20 点・岩舘先生・20 点） ＜最終評価＞ 総論点数＋各論点数の平均点 1. 鈴木先生・大向先生 20 点： 2. 岩舘先生 20 点：レポート評価 3. 黒澤：終講試験 筆記試験				
使用テキスト		医学書院 系統看護学講座「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 医学書院 系統看護学講座「小児臨床看護各論」 メディカ出版 母性看護学②「母性看護の実践」				
授業回数		授業概要(主な学習内容)		講師	授業形態	使用テキスト
第 1 回	総論	オリエンテーション 病気・障害が子どもと家族に与える影響 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護		黒澤	講義	小児看護学概論・ 小児臨床看護総論
第 2 回	総論	症状を示す子どもの看護・子どものアセスメント		黒澤	講義	

[ここに入力]

令和4年度 59回生 授業概要（シラバス）

第3回	総論	子どものアセスメント	黒澤	講義	小児看護学概論・ 小児臨床看護総論
第4回	総論	検査・処置を受ける子どもの看護	黒澤	講義	
第5回	総論	事例をもとにアセスメント	黒澤	講義	
第6回	各論	代謝性疾患と看護 内分泌性疾患と看護	黒澤	講義	小児臨床各論
第7回 8/24	各論	循環器疾患と看護、消化器疾患と看護	黒澤	講義	
第8回 8/24	各論	悪性新生物と看護	黒澤	講義	
第9回 8/25	各論	新生児の異常と看護	黒澤	講義	母性看護の実践 小児臨床看護各論
第10回 8/25	各論				
第11回 9/26	各論	事例を考える	黒澤	講義	小児看護学概論・ 小児臨床看護総論 小児臨床各論
第12回 9/27	各論	子どもの虐待と看護	鈴木	講義	小児看護学概論・ 小児臨床看護総論
第13回 9/29	各論	子どもの虐待と看護	大向	講義	
第14回 第15回 10/5	各論 各論	障がいがある子どもと家族の看護	岩舘	講義 講義	小児看護学概論・ 小児臨床看護総論
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業でテキストのすべてを網羅することはできないため、各自でテキストの範囲を読み込んでおく</li> <li>・子どもの状況を根拠を持ちアセスメントするためには疾病の病態生理を理解することが大切である。今までの履修した疾患については復習する</li> <li>・授業で疑問に思ったことは、講師に積極的に質問しそのままにしない。ただし、自分でも調べることを怠らない</li> <li>・第11回～第15回は順番が変更になる場合があります。</li> </ul>			

[ここに入力]